

4月23日（木）、全国の6年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果がまとまりました。本調査は、国語科・算数科の2教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間等を問う質問紙調査も実施されています。本校の子どもたちの状況をお伝えします。

【国語科】

全ての問題で全国平均・京都府平均を上回る正答率でした。特に「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題」、「考えとそれを支える理由や事例など情報と情報との関係について理解することができるかどうかをみる問題」では、全国平均・京都府平均を大きく上回る正答率でした。一方で「自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して引用することができるかどうかをみる問題」では、本校の子どもたちの正答率が低い傾向となりました。『根拠を引用しながら自分の考えを表現すること』に苦手意識があるようです。今後は国語科の授業の中で「根拠を明確にする活動」の充実を図ります。具体的には「考え＋根拠（引用）」をセットで表現する学習を取り入れ、「私は～だと考えます。なぜなら本文の「〇〇」という記述があるからです。」という話型が使えるように指導していきます。

【算数科】

ほぼ全ての問題で全国平均・京都府平均を上回る正答率でした。特に「体積の意味について理解しているかどうかをみる問題」、「示された情報を基に、数量の關係に着目して条件に合う時間を求めることができるかどうかをみる問題」では、全国平均・京都府平均を大きく上回る正答率でした。一方で「二次元の表から条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる問題」では、本校の子どもたちの正答率が低い傾向となりました。『表に整理された情報を条件に応じて正確に読み取る力』に課題がみられます。今後は算数科の授業の中で、資料活用場面を意図的に増やし、「この表から分かることは何か。条件に合う数はどれか。必要な情報と不要な情報はどれか。」について、根拠を言語化しながら説明する機会を増やします。

【保護者の皆様へ】

全国学力学習状況調査は、子どもたちの学習の状況を知り、可能性をさらに伸ばしていくために実施されているものです。結果が学力の全てを表すものではなく、順位を競うものでもありません。今回の本校の結果をみると、ご家庭での子どもに対する積極的な関わりや支援の成果が表れているように感じます。引き続き、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力をお願いいたします。

【児童質問紙調査】

◎人の役に立つ人間になりたいと思いますか。

	①当てはまる	②どちらかといえば当てはまる	③どちらかといえば当てはまらない	④当てはまらない
朱七小の割合	70.0	27.5	0.0	2.5
京都府の割合	71.7	24.3	2.7	0.9
全国の割合	70.8	25.0	2.9	1.0

本校では、①②と回答した子どもの割合の合計が97%を越えています。一方で、④と回答した児童がいることも見逃してはいけません。本校では「じぶんのためにひとのためにすすんでする子」をめざす子ども像として掲げています。人のために行動することの価値に気付くことができるような取組を進めていきます。

◎将来の夢や目標を持っていますか。

	①当てはまる	②どちらかといえば当てはまる	③どちらかといえば当てはまらない	④当てはまらない
朱七小の割合	62.5	20.0	12.5	2.5
京都府の割合	58.7	22.3	10.8	7.1
全国の割合	58.6	23.2	10.8	6.8

本校では、①②と回答した子どもの割合の合計が80%を越えています。一方で、④と回答した児童がいることも気になります。一人一人の将来の夢や目標を大切にし、なりたい自分に近づくことができるように、また、将来の夢や目標を見つけ、努力することができるように支援を続けていきます。

◎地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。

	①当てはまる	②どちらかといえば当てはまる	③どちらかといえば当てはまらない	④当てはまらない
朱七小の割合	30.0	57.5	10.0	2.5
京都府の割合	31.7	47.4	16.5	4.4
全国の割合	31.9	48.2	15.9	3.9

本校では、①②と回答した子どもの割合の合計が87%を越えています。地域の行事に参加することを通して、地域への所属感を高め、地域や社会のために何ができるかを考えるきっかけになればと思います。今年度は総合的な学習の時間や社会科の学習の中で、地域の方と触れ合う機会を設定しています。地域の方との出会いを通して、自らの生き方や考え方を見つめなおすことができるように今後も子どもたちを支援していきます。